

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4795500042 | | |
| 法人名 | 有限会社 新正クリーンサービス | | |
| 事業所名 | 認知症対応型共同生活介護 グループホームみなみ | | |
| 所在地 | 宮古島市平良字下里3107-364 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年12月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年3月22日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域でその人らしい暮らしが続けられるように衣食住は、勿論のこと、自分で出来ることを見つけて家庭的な温かなゆったりした雰囲気作り。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai gokouhvou. ip/kai gos ip/ infomationPublic. do?JGD=4795500042&SCD=320&PCD=47 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 沖縄タイム・エージェント | | |
| 所在地 | 沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F | | |
| 訪問調査日 | 平成24年1月25日 | | |

当事業所は、警察宿舎や小中学校に隣接した集合住宅街にあり、地域との交流が盛んに行われている。ゆったりとした敷地の奥に建物はあり、通路にはベゴニアやインパチェンス等の色とりどりの季節の花が咲き、入居者や訪問者を和ませている。また、事業所の庭先では野菜の栽培の他、にわとりも飼っている。建物の中央部のデイルームは、自然採光の天窗を設けて明るく爽やかである。入居者は、職員に見守られながら、各々デイルームや屋根つきのウッドデッキで、和やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 利用者や職員がいつでも見える場所、目の高さに合わせて理念を掲示、月1回のミーティングでも理念について話あっている。 | 事業所独自に作った理念をトイレに繋がる廊下に掲示し、職員は常に見るように努めている。また、月1回のミーティングで理念について話しているが、文章が長い為か、職員間の浸透には至らず、共有と実践に繋がっていない。 | 職員間で理念の理解と共有に努め、日々のケアに実践できるよう取り組んでほしい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会の敬老会や公民館の行事等に参加し交流を深めている。 | 地域の地盛自治会の活動に参加し、相互の敬老会や運動会等で交流している。近隣の小学生や教職員は遊びを通して交流したり、地域住民は野菜を持参して訪問している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 自治会など利用しながら今後の課題としたいと思います。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 年2回しか開催されておらず今後の課題です。 | 運営推進会議の委員には、開催の日程等を郵送と電話で連絡しているが、参加は厳しいとのことでキャンセルが多く、今年度は4月と7月の開催に留まっている。 | 運営推進会議の意義について理解を得て、基準省令上の開催を参加者に働きかけてほしい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 月1回は市役所へ出向きケースワーカーへ近況報告。 | 月に1回は施設長が市役所に出向き、担当者に入居者の状況を報告している。また、入居者と家族に問題があった場合は、市役所のケースワーカーに相談している。市に働きかけて、スプリンクラーを設置している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 利用者のその日の気分や状態をキャッチし、見守り徹底しているので、玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。4点柵について職員間で話し合い使用しない介護に努めている。 | 全職員が「拘束をしない」との意識の下で、玄関の施錠やベットの4点柵について理解している。家族には、入居時に「拘束をしないリスク」について説明をしている。入居時の不安で落ち着かない入居者に、施設長は24時間行動を共にし見守りで対応した経緯もある。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 月1回の職員会議で高齢者虐待防止関連法について話し合っている。 | | |

沖縄県(グループホームみなみ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 月1回権利擁護職員の方々と面談を行っている。文書などで職員への理解などを得ている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所希望時、十分説明し解約なども時間をかけ話し合い退去後の相談も受け理解納得に心がけてます。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱を設けたり、直接職員と話したり意見要望言いやすい環境に努めています。 | 入居者の思いや意向は、日常生活の中で要望を聞くように努め、家族の要望は、意見箱の設置や面会時に聞いている。入居者と家族の要望で、居室内に入居者専用のポットや砂糖入れ等を備えている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 随時個別の面談などで職員の意見や提案を聞く機会を設けてます。 | 月に1回のミーティングに職員は施設長と意見交換をしている。職員の意見で、シフトの問題や業務内容を改善している。また、入居者が寛げる場所を設けてほしいとの職員の要望で、屋根つきのウッドデッキを設置している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 常に意見を反映させ改善に取り組んでます。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修等の参加などは出勤扱いにし積極的に取り組んでいるが、職員の定着がなく今後の課題です。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 勉強会の参加ありませんが行事等の事業所相互訪問の参加あり。 | | |

沖縄県(グループホームみなみ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人の思いや訴えに耳を傾け本人の思いや不安を受け止めその人に合った対応している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所希望時に家族の困っている事を把握し利用者と家族にとって何が望ましいか話しあっている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 施設内で出来るサービスを説明し必要な支援が出来るよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員はもちろん他の利用者との相性も考え、部屋の配置や食卓の位置なども考慮している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人と家族との信頼関係を築くうえで、本人の思いを電話で伝えたり、声を聞かせたり家族の訪問回数増につなげている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 親戚や馴染みの人の訪問はいつでも受け入れた承し、電話連絡や手紙の代筆などもしてあげている。 | 入居者の要望で、家族や教会に電話を入れたり、手紙の代筆を支援している。事業所は訪問しやすい環境にあり、入居者の馴染みの友人や隣近所の住民が遊びで訪れている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士が家族という認識をもてるようにし孤立しないようさせ、常に食事は同じテーブルするなど互いの絆を深めるよう努めている。 | | |

沖縄県(グループホームみなみ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 病院やお店などで家族に会ったときなどは近況を聞き、相談など受けたり時には面会に行く事もある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者部屋や一対一になって希望やニーズを知るように話せる雰囲気作りをやり、把握し、困難な場合は家族や職員間で検討している。 | 入居者の居室内での会話や、入浴時等に希望や意向を聞くよう努めている。把握が困難な場合は、入居者の仕草や行動から察したり、気に入られた職員が対応して十分に話を聞き支援に繋げている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や本人自身から思いで出など把握しようと努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 少なくとも一時間置きには利用者確認、声かけはするよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 一日の気づきで職員間で意見、アイデアを即実践できるように努めてはいるが家族の要望、話し合いは少ない部分もある。 | 入居時の介護計画は、全職員で話し合い情報を共有して作成している。毎月の定例会議で、介護計画担当者より入居者の状態や課題点について報告しているが、計画の見直しには至らず、モニタリングも実施していない。 | 入居者のモニタリングを実施し、状態の変化に応じた介護計画の見直しが見られる。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の記録は常に努めている。介護計画の見直しの細かい部分までは至らないこともある。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者の突発な要望(病院行きたい)、会いたい人への面会など余裕があれば常にその時対応している。 | | |

沖縄県(グループホームみなみ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|----------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣の小学校があるが、一時子供達への挨拶などはしていたが、今はなくもっと子供達とのふれあう機会を作りたい。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前のかかりつけ医を継続し受診支援している。 | 入居者一人ひとりが入居前のかかりつけ医を受診している。受診の際は、入居者一人以外はほぼ職員で対応し、主治医には口頭で状況を説明し、結果は電話で家族に報告している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問診療時などに医師や看護師に判断の難しい状態の対応やアドバイスを受けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時には、週2回は訪ね不安解消に努めている。退院時の目安や今後の生活アドバイスや家族も含め受け取るようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 職員と終末期や看取りをどうするか話し合った結果看護職員などがいないことなどから、受け入れ難いが、終末期には入院か在宅が良いか、本人、家族と話し合い終末医療の手配をする。 | 事業所として、医療関係の体制が厳しいので終末期ケアは行わないことを方針とし、入居時に家族に説明している。入居者の体調に変化がある時は、家族と十分に話し合い対応を相談している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故や緊急時は直ぐに病院、救急車の手配をし責任者に速やかに連絡取れる体制をしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 今年度避難訓練は行われなかったが、非常警報装置及びスプリンクラー設置してあります。 | 事業所内にスプリンクラーや非常警報装置、消火器も3ヶ所に設置しているが、今年度は避難訓練の実施には至っていない。また、災害に備えた備品の準備も図っていない。 | 消防法上、毎年度の訓練の実施が望まれる。 |

沖縄県(グループホームみなみ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 失禁やオムツ交換はさり気なく居室誘導して行っている。その際プライドを傷付けないよう配慮し、利用者への言葉使いについてもはなしあっている。 | 入居者の人格を損ねないように、職員間で言葉使いに気をつけている。入居者の生活歴を重視し、家族のない方や面会の少ない方々へ配慮しながら支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 個々の生活パターンを把握し焦らすことはせず、いつでも良いとの体制を取っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入浴、外出、食事等本人の気持ちを最優先し、個々のペースに合わせた日々の生活を共にしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2ヶ月に1回は外出を兼ねて美容院へ行き、いつもと違う雰囲気をおしわう。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の好みや希望を取り入れて調理している。3ヶ月に1回の外食も取り入れてる。片づけ出来る方にはお願いしてやってもらうようにしている。 | 事業所で栽培している野菜を食事のメニューに取り入れている。職員の一人は毎日、入居者を介助しながら一緒に食事を摂っている。入居者は、皿の後片付け等に参加している。また、3か月に1回は、車椅子の出入りが可能なレストランで食事をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々の好みや体調、摂取量を把握し食べ過ぎないように工夫している。水分摂取量には十分注意している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後は必ず口腔ケア行ってます。出来る方は自分でやってもらい出来ない方は介助にて。 | | |

沖縄県(グループホームみなみ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 行動等で読みとるようにしたり、声かけを行い日中の失禁は無いに等しい。 | 排泄チェック表で入居者一人ひとりのパターンを把握し、職員間で情報を共有して随時誘導している。オムツ利用者も、日中はトイレへ誘導している。訴えない入居者は、仕草等で読み取り誘導している。失敗時はさりげなく声かけをして居室で対応している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ヨーグルトや芋、果物等を食事に多めに取り入れ、出来るだけ自然排便を心掛けてます。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 毎日入浴したい方等、本人の希望に応じてます。入浴嫌がる方もいますが日中で落ち着いているときに声かけし誘導してます。 | 入浴は羞恥心に考慮し、個浴で同姓介助を基本としている。入居者の希望があれば、毎日の入浴にも対応し、支援する職員も入居者の希望を取り入れて配置している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々のスペースを大事にし居室で休みたい方は居室で、ソファが好きな人はソファで等本人の気持ちを第一に配慮してます。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋を個人記録前にいれ、職員全員で把握し、薬の変更がある場合申し送りや業務日誌にも必ず記録してます。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ドライブが好きな方は職員と共に買い物に出かけり、畑が好きな方はホーム内の畑へ行かれたり、縫い物が好きな方には雑巾を縫ってもらったり本人が今までされてきたをさせるよう楽しんでもらっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 法事や行事、本人の希望に沿うようにし、買い物途中、自宅付近を通る時など自宅に寄ったり、家族の方や近所の方と話できるようなつながりをもたせています。 | 天気の良い日は、庭先で日光浴をしたり、施設の周辺を散歩したり、気分転換で、ドライブにも出かけている。入居者の希望により、法事や金融機関、スーパー等への買い物や教会への外出も支援している。 | |

沖縄県(グループホームみなみ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 事業所としては、お金の預かりは一切しておらず権利擁護を利用して少額の金銭は個人でも使えるようにしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話連絡などは職員が掛けてあげたり、手紙の代筆も行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 天窓があり、日中は明るく風通しもよい。テレビが観たい方はテレビ前ソファーでくつろぎ、タバコが吸いたい方は喫煙所もうけてある。 | 玄関には月桃の葉の香りが漂い、共用空間の居間は、2か所の天窓からの採光で明るく広々としている。事業所内には絶えず懐メロや民謡が流れ、壁には、季節感のあるちぎり絵を飾っている。煙草を吸う入居者の為に喫煙所を設けている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | イスやソファーをホール3カ所に設け、利用者が好きな場所、楽に過ごせる場所、気のあった利用者同士会話が楽しめるようにしてある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 長年使用してきた家具や愛着のある物をもってきてもらい、本人が安心し不安感がないように心掛けています。 | 居室には備え付けたタンスの他、入居者が馴染みの家具や寝具、写真や家族の位牌等を持ち込んでいる。また、入居者専用のポット等を用意し、その人らしく居室作りを工夫している。入居者の希望で、畳間の居室もある。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 排泄が出来る方はトイレ近くの居室を用意、ベランダへよく行く方には手すりを延長して取り付けるなど工夫している。 | | |